

Scramble Shot

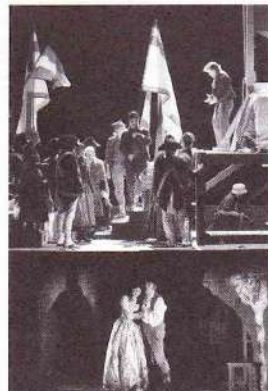
Opera

カウフマンとハルテロスによる《アンドレア・シェニエ》

現在、これだけ豪華なオペラ上演を実現できる歌劇場が存在するということにまず驚いた。バイエルン州立歌劇場によるジョルダノー《アンドレア・シェニエ》は、マドンナ等のビデオを制作しているフィリップ・シュテルツルの演出は、細部まで計算された配置で、まるで絵画のようだ。映画のセットのように美しいハイケ・フォルマーの舞台装置は、地上と地下でコワニー邸の階級を表し、売春宿や路地、広場の下に祭壇や牢屋を配したセットも、秒単位にマッチした動きでスムーズにセットアップされる。(3月22日所見)

ニコラウス・バッハラー総裁が目をかけているというイスラエル人指揮者オメル・メイール・ヴェルバーが率いるオーケストラはドラマティックで状況描写が上手く、サスペンス映画のような効果を生み、粒揃いの歌手陣の歌唱がより引き立った。

昨年秋から休養を強いられたヨナス・カウフマンの状態が心配されたが、多少セーブしながらも、シェニエを歌うために生まれてきたような適役ぶりだった。またマッダレーナ役はアニヤ・ハルテロスにとって重過ぎるのではないかと案じたが、ヴェルディを歌う時の正統派歌唱を崩してヴェリズモふうのアプローチにし、胸声を鳴らす代わりに顔面にフォーカスを当てた声で低音を処理し、ヴォリュームに頼らず歌詞のアクセントで劇的な表現を可能にした。アリア後半では不可能に近いほど遅いテンポで長いフレーズをドラマティックに歌わされていたが、上手く解決してついで行ったため素晴らしい効果を生み、今宵一番の成功者となった。(中 東生)



地上と地下でコワニー邸の階級を表したフィリップ・シュテルツルの演出。バイエルン州立歌劇場《アンドレア・シェニエ》から © Wilfried Hösl